

**知事をはじめ各審査員等からのコメント****1. 大野 元裕 実行委員会会長（埼玉県知事）**

過去2回にわたり、感染拡大防止のためスクリーン上映ができず残念でしたが、オンライン配信により新たなファンを獲得しました。今年はスクリーン上映とオンライン配信による「ハイブリッド」型で開催します。この2年、映画業界はコロナ禍により、厳しい状況に置かれてきましたが、今年のコンペティションにはコロナ禍以前より多い99の国と地域から935作品が寄せられ、当映画祭への期待の大きさを感じています。その中から厳選された計24本を上映・配信しますので、ご期待ください。オープニングを飾るのは、本映画祭で3年連続で受賞された磯部鉄平監督が、SKIPシティの機材を利用して制作した『世界の始まりはいつも君と』です。また、過去ノミネートされたウクライナ作品を上映・配信し、その収入をウクライナの人道支援に寄付するチャリティ上映も企画しました。これからの映画界を担うクリエイターの登竜門とも言えるこの映画祭を盛り上げていただきますよう、よろしくお願いいたします。

**2. 奥ノ木 信夫 実行委員会副会長（川口市長）（※ビデオメッセージ）**

SKIPシティ会場を中心とした、3年振りのスクリーン上映が復活する見込みとなり、大変楽しみにしております。川口で映画祭を開催できるようご尽力いただいた関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。ぜひ川口に来て、映画をお楽しみいただきたいと思います。映画界の次代を担っていくクリエイターの発掘と育成を今後も継続的に支援し、日本だけでなく、世界中の人たちからも厚い支持を受ける国際映画祭を目指して、本映画祭を盛り上げて参ります。

**3. 八木 信忠 総合プロデューサー（埼玉県産業労働部顧問）**

本映画祭は、世界中の新人映画作家を発掘・育成することを目的として立ち上げたものです。いずれの部門においても未来への可能性を秘めた人材を対象としておりますので、新しい感覚にあふれた優れた作品が登場することを期待しています。どうぞ皆様、SKIPシティへのご来場、またはオンライン配信のご視聴により、日本国内や世界各国の新人映画作家たちの作品を是非ご覧いただき、彼らの未来への飛躍を後押ししていただきますよう、お願い申し上げます。

**4. 寺島 しのぶ 国際コンペティション審査委員長（女優）**

このような小さな映画祭から大きな才能が見つかって花が開いてゆくこの過程の中で、審査委員長というのはおこがましいですが、世界各国から集まった若手監督の作品が観られることを楽しみにしています。国内コンペティションでは『シェル・コレクター』（16）で撮影をしてくださった芦澤さんと久しぶりにお会いでき、とても嬉しくて、二人で楽しく出来たらいいなと思っています。素敵な作品に出逢えることを楽しみにしています。

## 5. 芦澤 明子 国内コンペティション審査委員長（撮影）

継続は力なりと申しますが、長きにわたってこの映画祭を支えているスタッフ・関係者の方々に敬意を表したいと思えます。3年ぶりのスクリーン上映ということで、作家の方々も、やはり自分の作品を作ってもなかなか観てもらえない中で、こうして一般の観客の方々に、しかも大きなスクリーンで観てもらえるチャンスを上手に活かして、多くの交流を持ってほしいです。言い方は悪いですが、この映画祭を利用し尽くし、どんどん伸びてほしい。SKIPシティに来て、好きだ嫌いだ、良いの悪いの、どんどん賑やかにお喋りしていただいて、盛り上がりのある映画祭になったらいいなと思えます。熱量の高い映画と出会えることを、心より期待しています。

## 6. 土川 勉 映画祭ディレクター

Dシネマ映画祭は白石和彌監督、中野量太監督、上田慎一郎監督、片山慎三監督たち第一線で活躍する商業映画監督を多く輩出してきました。3年ぶりの通常開催となる今年のオープニング作品『世界の始まりはいつも君と』は、2018年『予定は未定』、2019年『ミは未来のミ』、2020年『コーンフレーク』と、本映画祭で3年連続受賞を果たした磯部鉄平監督の最新作をワールド・プレミア上映します。特集企画「What's New～飛翔する監督たち～」では、本映画祭出身の萱野孝幸監督と真田幹也監督の最新作を劇場公開に先駆けワールド・プレミア上映します。次の世代として日本映画界を牽引してもらいたいと思えます。このことは「若手映像クリエイターの発掘と育成」を掲げている本映画祭にとって喜ばしく思えます。国際コンペ、国内コンペ共に例年以上に粒ぞろいの作品を揃えましたので、今年はぜひ川口市の大きなスクリーンでご鑑賞ください。

